

## おもいで話

労働者委員 木佐貫 美保

5月にコロナ感染症が5類となり、マスク着用も個人判断になった。私は仕事の時はマスクを着け、それ以外は周りを見ながら判断している。マスクを着けるのが当たり前の生活になって、あっという間の3年。「マスクを着けていない方が落ち着かない」という人も多いように思う。

そういえば、初めてマスクを着けたのはいつだろう？

記憶を遡る、幼稚園…いや、小学校の給食当番だ。白衣と帽子、そして白いガーゼ製布マスクを身に着け、みかんネットに入ったレモン型の石鹸で手を洗い、みんなで給食を取りに行った。息がしにくくて鼻を出していたら注意された記憶がよみがえる。

小学校の給食といえば4時間目、風に乗ってやってくる良い匂いにぐうーとお腹が鳴ったものだ。（この頃は学校で給食を作っていたが、今は給食センターから配達されている）たしか月～金のうち、ごはんが月水金でパンが火木。おかずと汁物に副菜、デザートそしてパックの牛乳。お盆をもって並ぶクラスメイトの「〇〇少なめで」「大盛りでお願い」といった交渉をうまくさばきながら、均等に人数分配れた時は妙な達成感を感じていた。

給食は大好きだったが、唯一の天敵が牛乳だ。毎日、しかも土曜日2時間目の休み時間にも出るのだから、飲まない選択肢はない。口をすぼませてストローで喉に直接流し込んでいた、その感覚はまだ残っていたりする。

給食の話しをすると一番好きだったメニューで盛り上がる。小学校では、きなこパン（揚げパン）が大人気だった。年代や地域によって違うからこそ給食の話しは面白いんだよな。…なんとも、とりとめのない話になってしまった。